

令和2年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
 (I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)
 事業内容報告書の概要

<p>令和2年度に実施した取組の内容及び成果と課題</p>
<p>1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)</p> <pre> graph TD A[鳥取県教育委員会] <--> 連携協力 B[湯梨浜町教育委員会] B <--> 連携協力 C[児童生徒在学学校] D[国際交流財団] --> 協力(支援員・通訳の紹介等) B E[外国人児童生徒] --> 日本語・学習支援 ・教員免許の有無は問わない ・使用言語は中国語 C </pre>
<p>2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること</p> <p>(2) 拠点校の設置等による指導体制の構築 ※指導体制構築済(令和元年度)</p> <p>(4) 「特別の教育課程」による日本語指導の実施 町教育委員会・学校・児童支援員の三者で連絡会を行い、「特別の教育課程」による指導方針の確認や課題の共有を行った。</p> <p>(6) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣 母語の分かる児童支援員を配置し、取り出し授業や通常学級への入り込み指導において、対象児童の適応指導及び学習指導における母語支援を行った。 必要に応じた母語支援により、学校生活の中で児童の生活能力が身に付くよう支援するとともに、保護者へ丁寧な情報提供(配付物の翻訳や面談での通訳等)を行った。</p> <p>(12) 成果の普及 日本語指導が必要な児童生徒を受け入れる際の手順等の整理を行った。 校長会において取組の内容及び成果について共有を行った。</p>
<p>3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること</p> <p>(4) 「特別の教育課程」による日本語指導の実施</p> <p>【成果】 特別の教育課程編成についての情報を共有することができ、個別指導計画による指導を進め、個に応じた適切な支援を行うことができた。</p> <p>【課題】 「特別の教育課程」や「個別の指導計画」について、多くの教職員が関わり、共通理解を図るための方法や時間の確保が必要である。 対象児童の実態を細かく見取り、支援員との打ち合わせや、細やかなケース会議、支援会議を計画的に設</p>

定することが必要であった。

(6) 日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣

【成果】 母語による教員の説明や友達の発表等に対する通訳等の適切な支援により、日本語及び他教科の学習を積み重ねることができ、友達との関わりや学校生活への不安や戸惑いを軽減することができた。

学校と保護者間のコミュニケーションを円滑に行うことができた。

【課題】 支援員の人員確保及び年度中途に来日した児童支援についての緊急対応が難しい。

支援員の勤務割当内で保護者と面会してコミュニケーションをとる時間を確保することが難しい面があった。

(12) 成果の普及

【成果】 該当児童生徒が在籍しない学校についても、受入体制の参考にすることができた。

【課題】 外国人児童生徒への適切な対応を速やかに行うために、日ごろから、さまざまな関係機関と情報交換を行い、連携を深める必要がある。

日本語指導が必要な児童生徒のうち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒の割合	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
	100 %	%	%	%	%	%
うち、個別の指導計画の指導目標が達成できた児童生徒の割合	100 %	%	%	%	%	%

4. その他(今後の取組予定等)

※枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。